

7

○厚生大臣が定める福祉用具貸与に係る

(平成11年3月31日)
(厚生省告示第93号)

福祉用具の種目

介護保険法（平成9年法律第123号）第7条第17項の規定に基づき、厚生大臣が定める福祉用具貸与に係る福祉用具の種目を次のように定め、平成12年4月1日から適用する。

厚生大臣が定める福祉用具貸与に係る福祉用具の種目

- 1 車いす
自走用標準型車いす、普通型電動車いす又は介助用標準型車いすに限る。
- 2 車いす付属品
クッション、電動補助装置等であって、車いすと一体的に貸与されるものに限る。
- 3 特殊寝台
サイドレールが取り付けられているもの又は取り付けることが可能なものであって、次に掲げる機能のいずれかを有するもの
 - 一 背部又は脚部の傾斜角度が調整できる機能
 - 二 床板の高さが無段階に調整できる機能
- 4 特殊寝台付属品
マットレス、サイドレール等であって、特殊寝台と一体的に貸与されるものに限る。
- 5 じょく瘡予防用具
次のいずれかに該当するものに限る。
 - 一 送風装置又は空気圧調整装置を備えた空気マット
 - 二 水等によって減圧による体圧分散効果をもつ全身用のマット
- 6 体位変換器
空気パッド等を身体の下に挿入することにより、居宅要介護者等の体位を容易に変換できる機能を有するものに限り、体位の保持のみを目的とするものを除く。
- 7 手すり
取付けに際し工事を伴わないものに限る。
- 8 スロープ 185cm:6.7万 (ハンディスロープ)
段差解消のためのものであって、取付けに際し工事を伴わないものに限る。
- 9 歩行器
歩行が困難な者の歩行機能を補う機能を有し、移動時に体重を支える構造を有するものであって、次のいずれかに該当するものに限る。
 - 一 二輪、三輪、四輪のものにあつては、体の前及び左右を囲む把手等を有するもの
 - 二 四脚を有するものにあつては、上肢で保持して移動させることが可能なもの
- 10 歩行補助つえ
松葉づえ、カナディアン・クラッチ、ロフストランド・クラッチ及び多点杖に限る。
- 11 痴呆性老人徘徊感知機器 18-6、トレス7-1V-
痴呆性老人が屋外へ出ようとした時等、センサーにより感知し、家族、隣人等へ通報するもの
- 12 移動用リフト（つり具の部分を除く。）
床走行式、固定式又は据置式であり、かつ、身体をつり上げ又は体重を支える構造を有するものであって、その構造により、自力での移動が困難な者の寝台と車いすとの間等の移動を補助する機能を有するもの（取付けに住宅の改修を伴うものを除く。）

国が
10万円
を3割削減

○厚生大臣が定める居宅介護福祉用具購入費等

の支給に係る特定福祉用具の種目

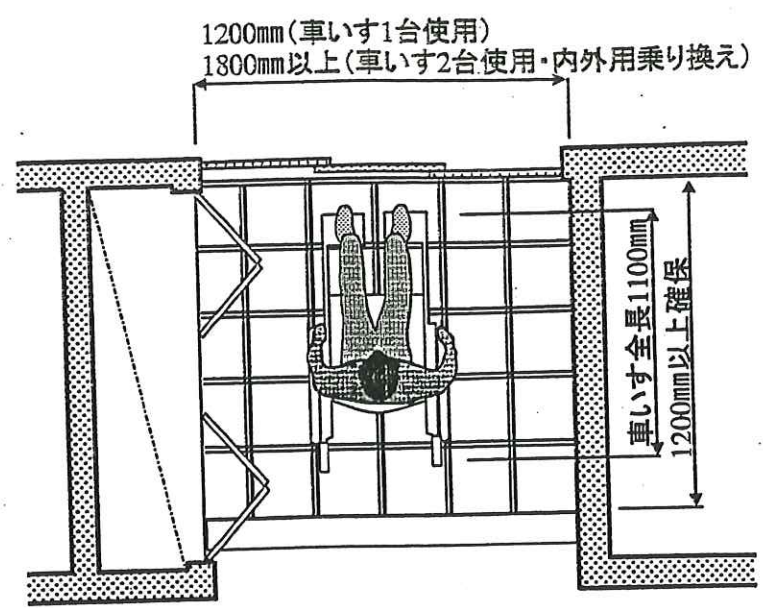
(平成11年3月31日)
(厚生省告示第94号)

介護保険法（平成9年法律第123号）第44条第1項の規定に基づき、厚生大臣が定める居宅介護福祉用具購入費等の支給に係る特定福祉用具の種目を次のように定め、平成12年4月1日から適用する。

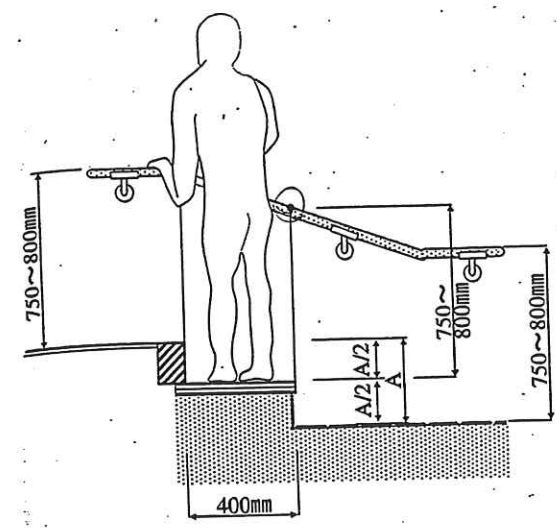
厚生大臣が定める居宅介護福祉用具購入費等の支給に係る特定福祉用具の種目

- 1 腰掛便座
次のいずれかに該当するものに限る。
 - 一 和式便器の上に置いて腰掛式に変換するもの
 - 二 洋式便器の上に置いて高さを補うもの
 - 三 電動式又はスプリング式で便座から立ち上がる際に補助できる機能を有しているもの
 - 四 便座、バケツ等からなり、移動可能である便器（居室において利用可能であるものに限る。）
- 2 特殊尿器 スカトウリオン 0.8万、レシーバーでト
尿が自動的に吸引されるもので居宅要介護者等又はその介護を行う者が容易に使用できるもの
- 3 入浴補助用具
座位の保持、浴槽への出入り等の入浴に際しての補助を目的とする用具であつて次のいずれかに該当するものに限る。
 - 一 入浴用いす
 - 二 浴槽用手すり
 - 三 浴槽内いす
 - 四 入浴台
浴槽の縁にかけて利用する台であつて、浴槽への出入りのためのもの
 - 五 浴室内すのこ 1.0㎡:4.1万
 - 六 浴槽内すのこ 45×25 H15-21cm : 2.4万 (バスシート) 1.5
- 4 簡易浴槽 5.3万 給湯ポンプ5.5万、排水ポンプ5.5万 空気ポンプ
空気式又は折りたたみ式等で容易に移動できるものであって、取水又は排水のために工事を伴わないもの
- 5 移動用リフトのつり具の部分

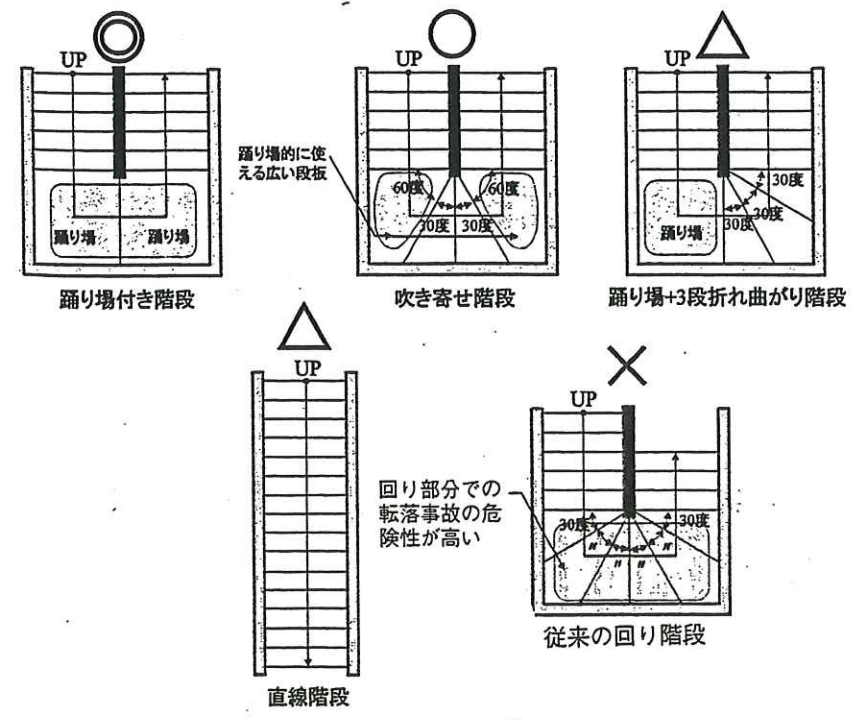
■図4 車いす使用を考慮した工面寸法



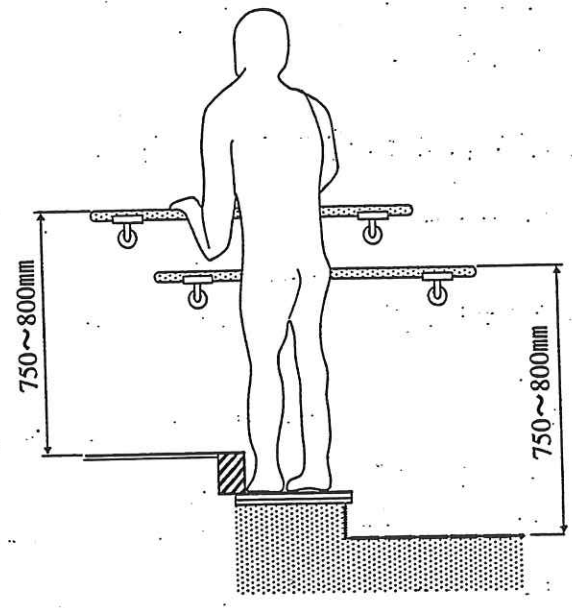
■図6 斜めに設置した手すりの例



■図11 階段の形状と安全性

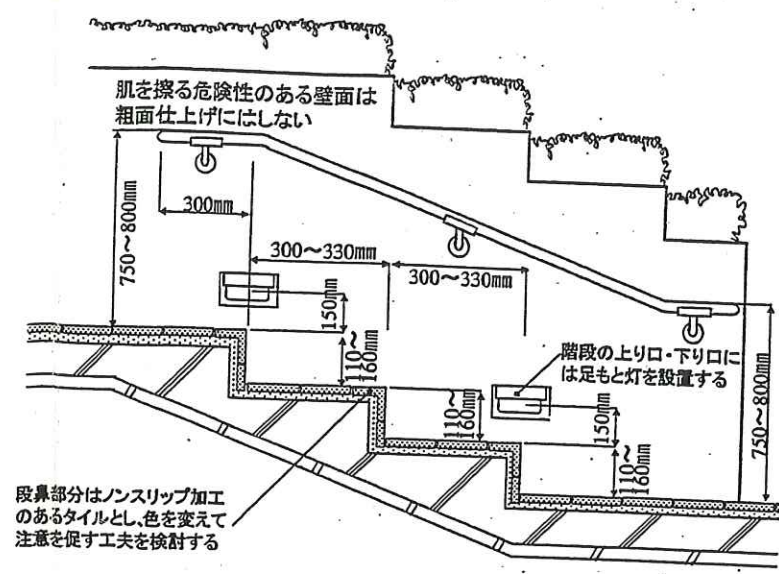


■図7 上下2段に設置した手すりの例

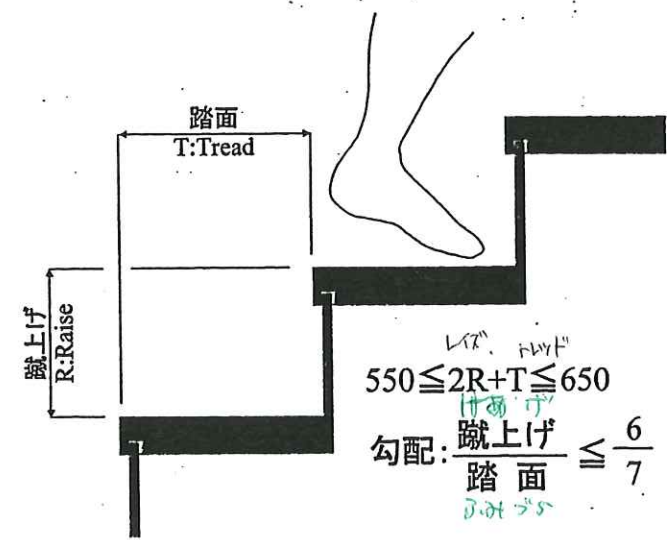


壁側の手すりを両手で握り両脚をそろえて昇降する二足一段の昇降方法を用いる場合には手すりを助動的に設置することも検討する

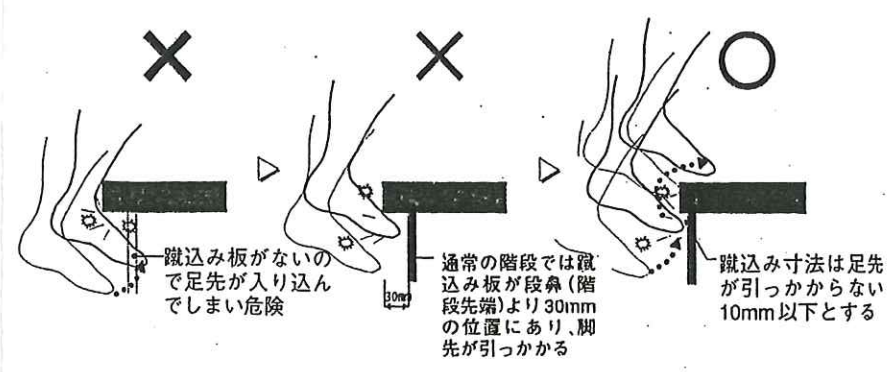
■図3 屋外階段と手すり設置例



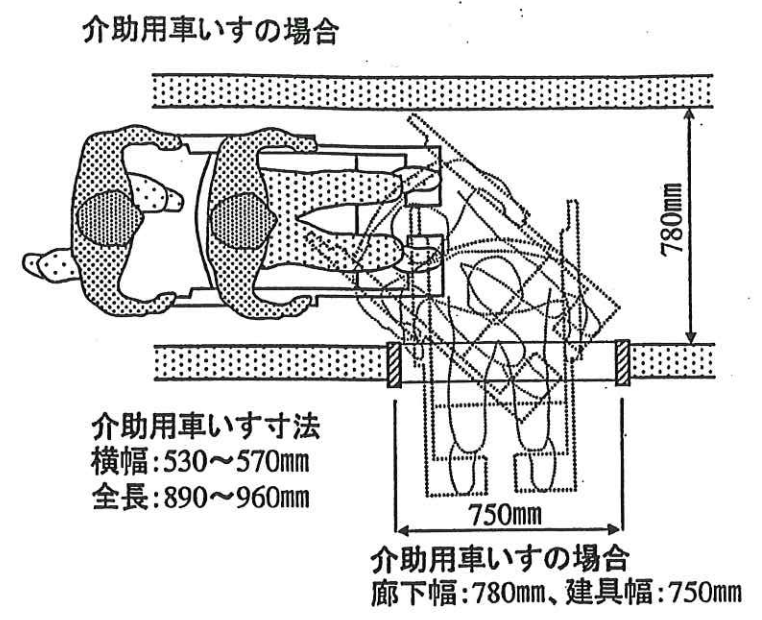
■図12 踏面と蹴上げ寸法の関係



■図13 段鼻部分のおさまりと安全性



■図8 車いすが通行可能な幅員寸法



自走用車いすの場合

自走用車いすは全幅・全長とも、介助用車いすよりも大きい。それに加えて、自走用車いすは自分でハンドリムを回すために肘が左右に突出するため、廊下幅・建具幅を要する。

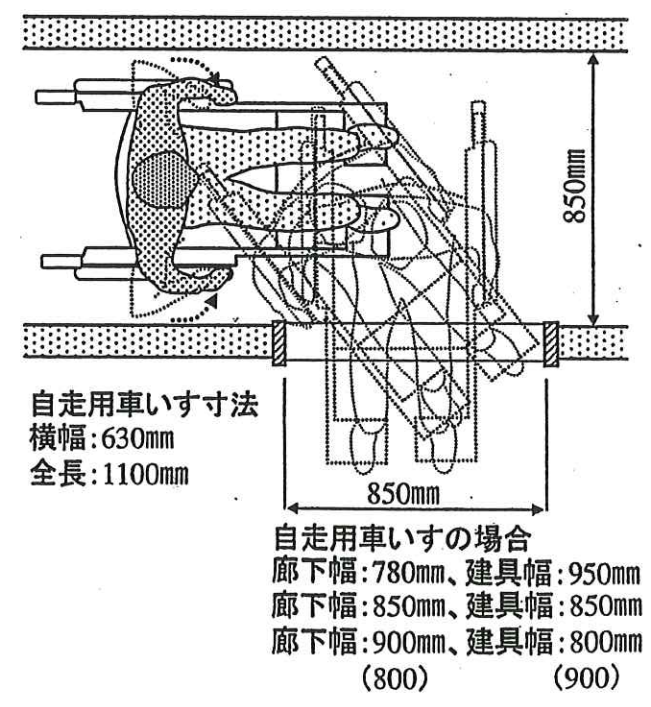


図20 便器のくびれと使いやすさ

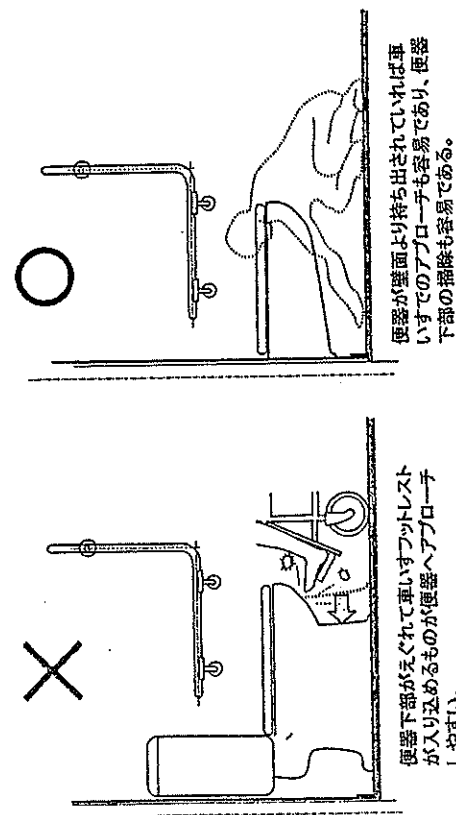
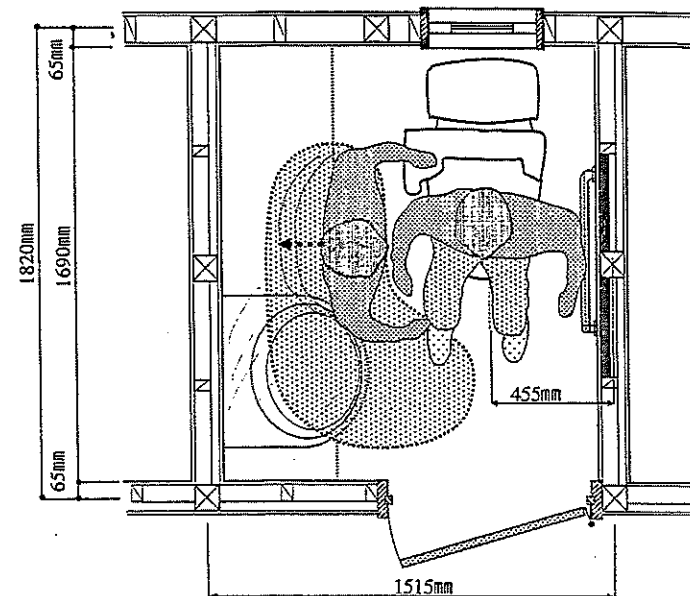
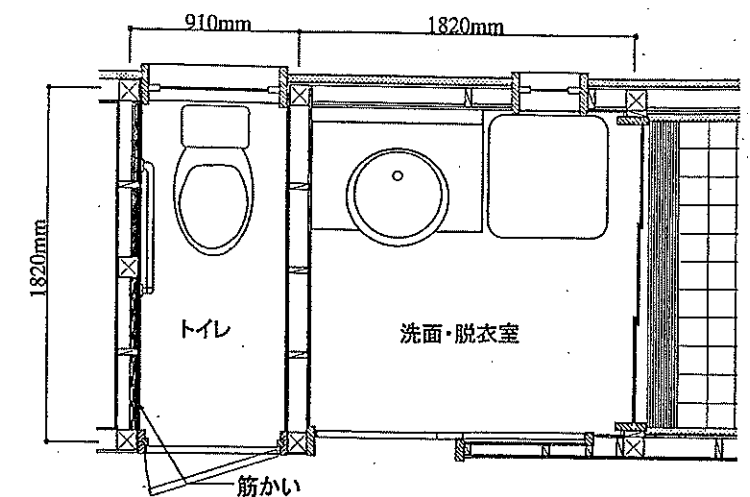
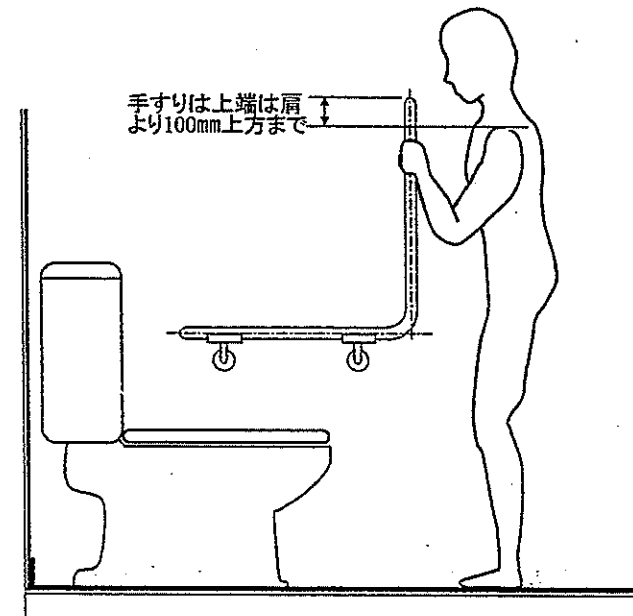


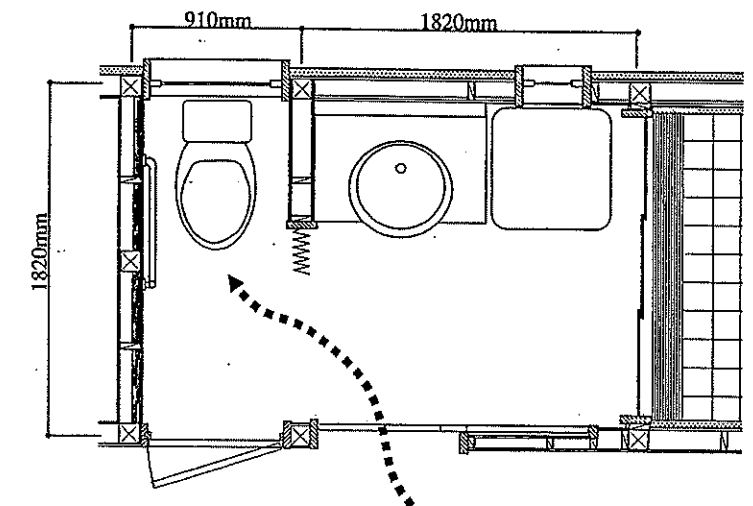
Figure 1 is a floor plan diagram of a toilet stall. The stall is 1820mm high and 1690mm wide. It contains a toilet and a shower area. The shower area is 500mm wide and 455mm high. The text "500mm 以上確保" (Ensure 500mm or more) is written above the shower area. The text "介助スペース" (Assistance space) is written below the shower area. The text "1515mm" is written at the bottom of the diagram.



■図 17 トイレの手すり取り付け高さ



壁面撤去後の介助スペースの確保

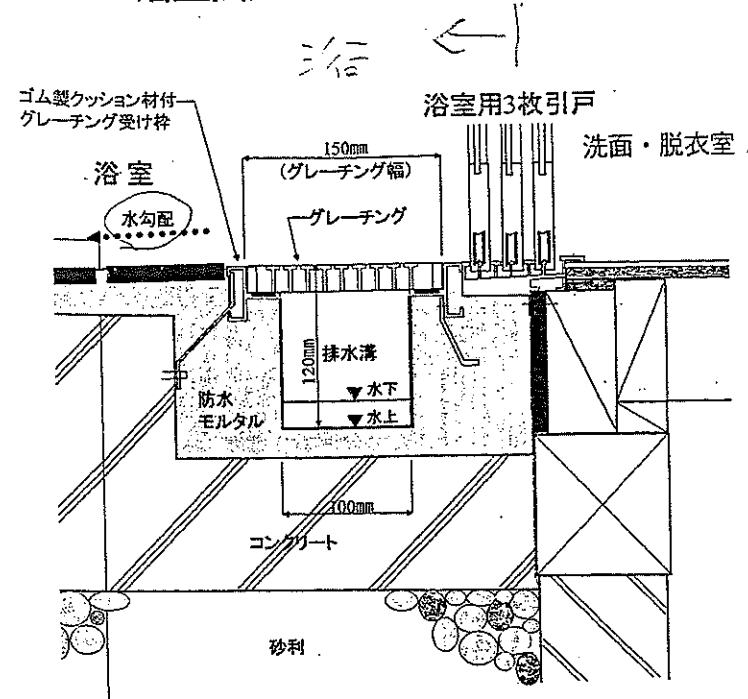


壁面を撤去して介助動作を行いやすくする。
プライバシーを確保するために引き戸とすることも検討
する。ただし、残った壁面で介助動作に支障をきたすこ
とがないか、確認する。

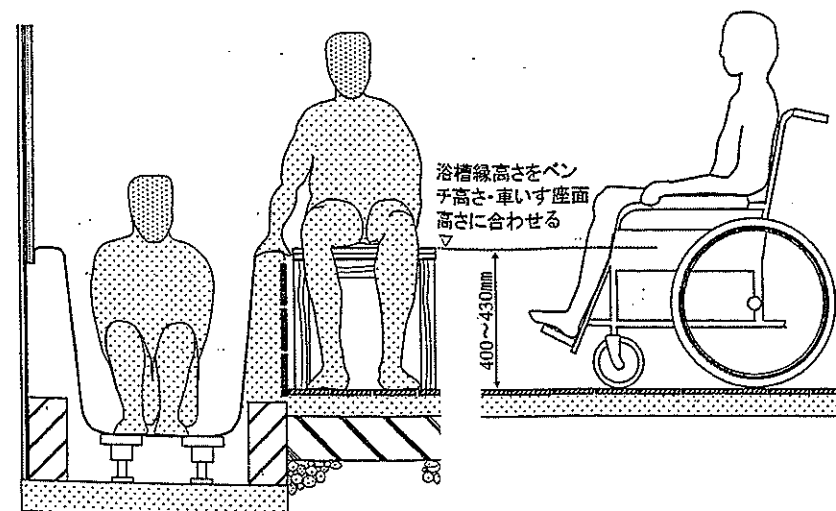
トイレと洗面・脱衣室間の壁面建具を設けて、洗面・脱衣室側より介助が可能なように工夫する。

トイレと洗面・脱衣室間の建具を開けて、廊下に面した建具を閉めるとトイレと洗面・脱衣室がワンルームとなり広い介助者スペースが確保できる。

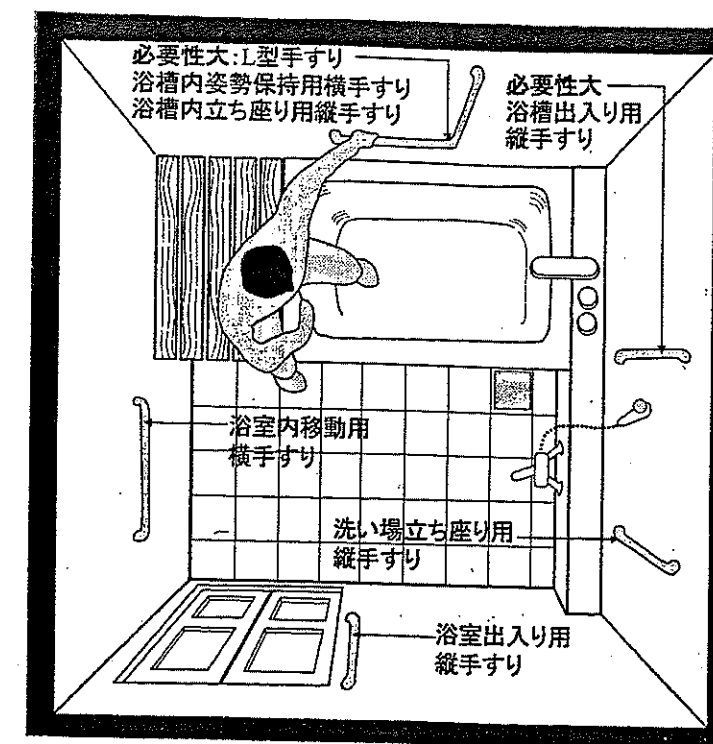
■図24 浴室出入り口のグレーチング位置例



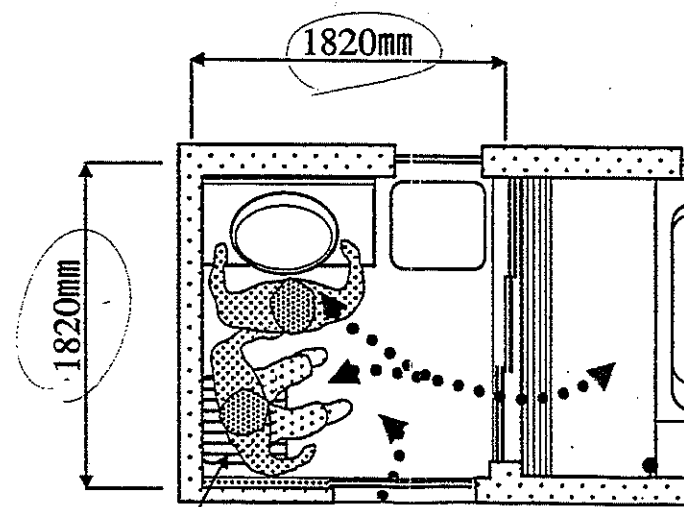
■図27 車いすに配慮した浴槽線高さ



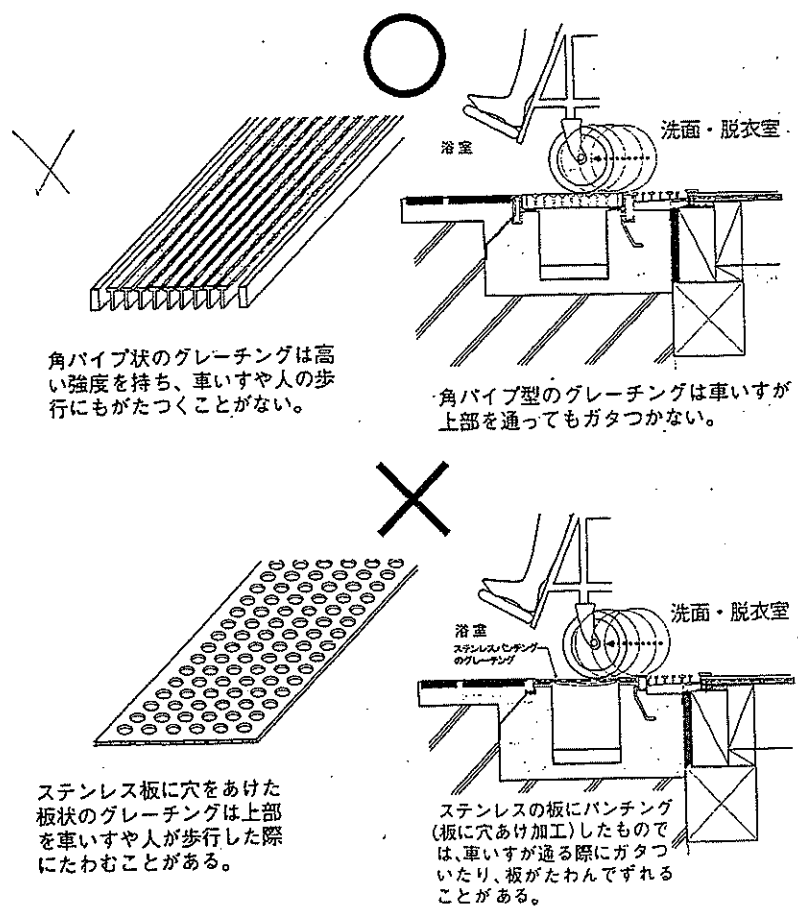
■図29 浴室の手すり設置位置



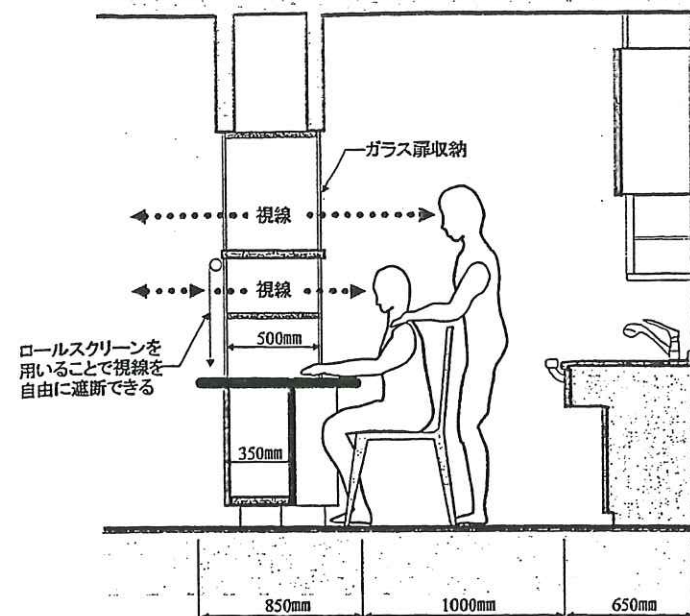
■図21 ゆったり使える洗面スペース



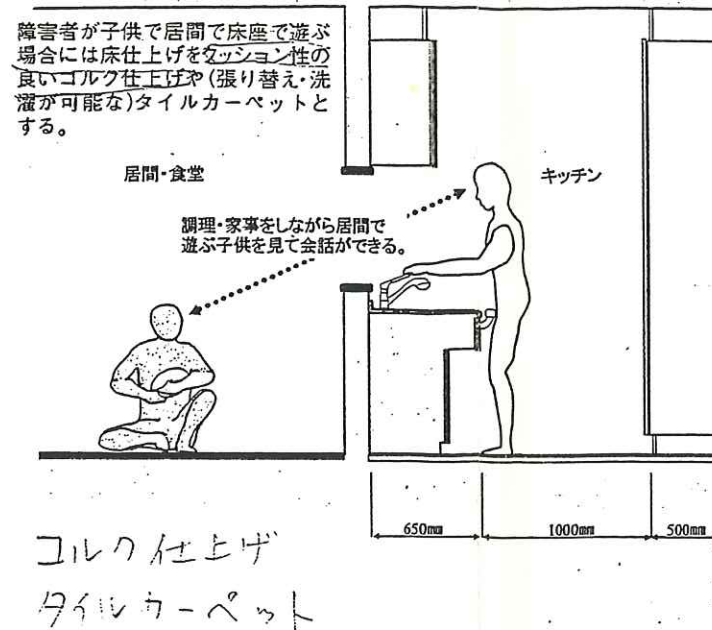
■図25 グレーチングの形状



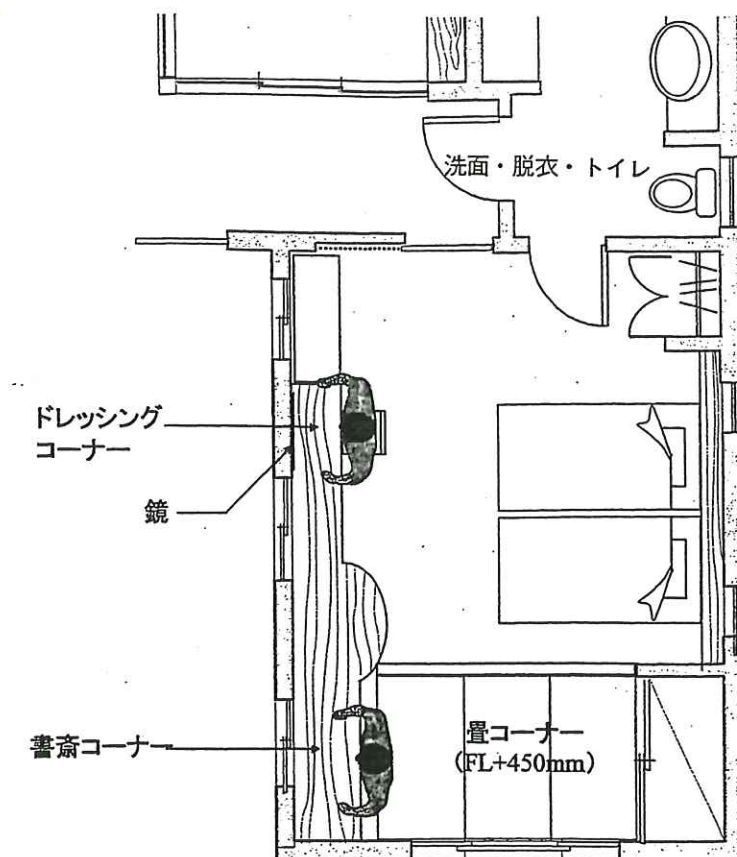
■図31 ハッチを利用したキッチンの間仕切り



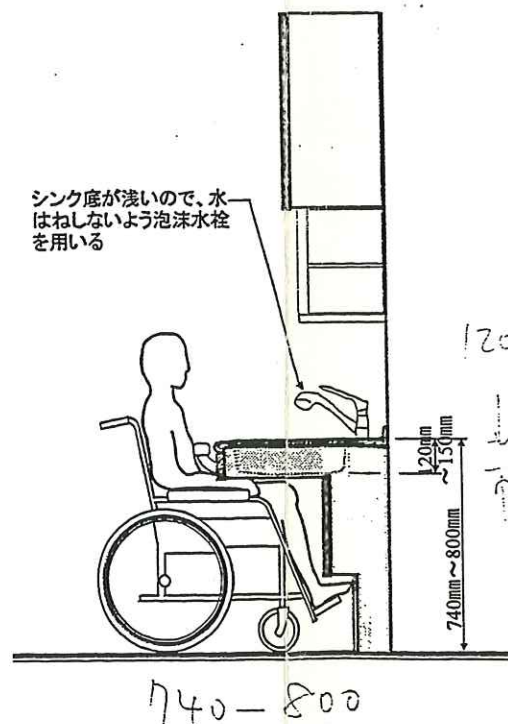
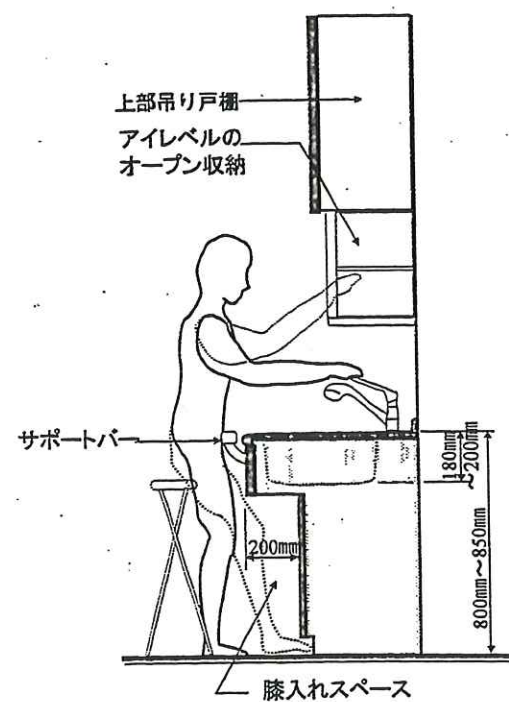
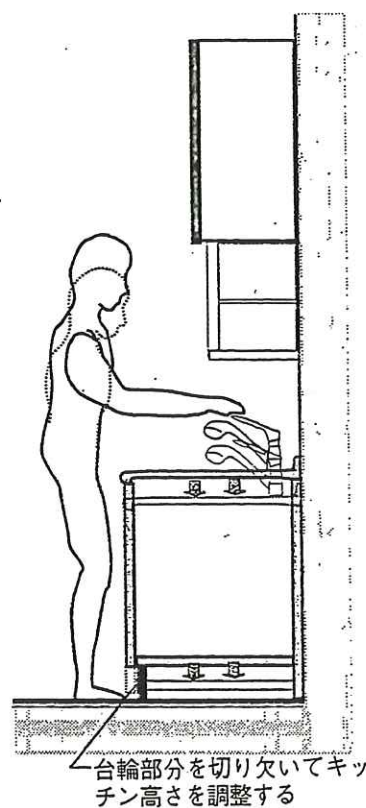
■図32 子どもにも目を配ることのできるカウンター配置



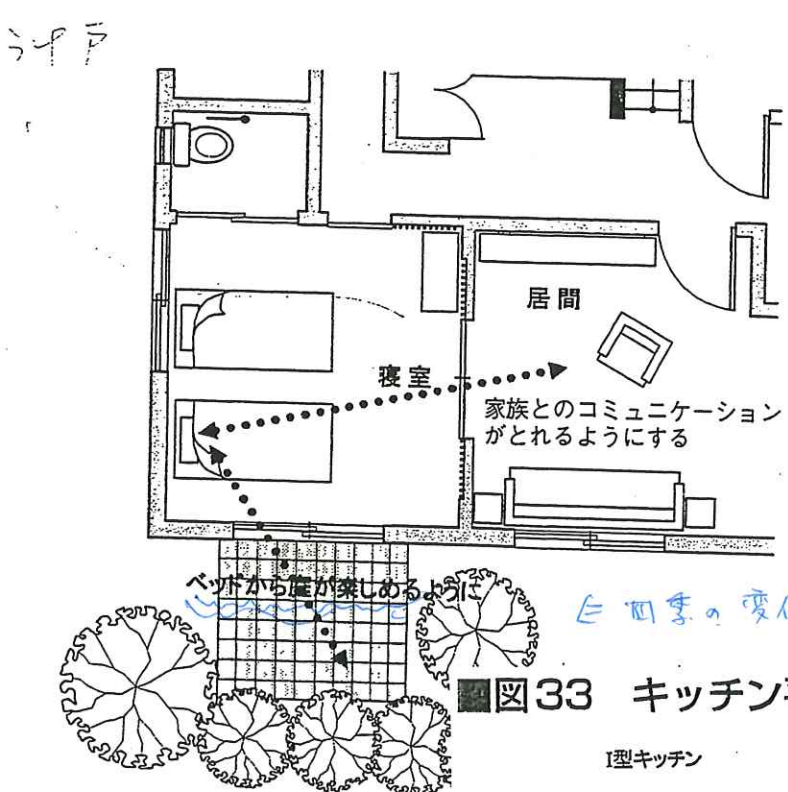
■図33 寝室に畳スペースを設けた例 No.6



34 台輪部分を改造して高さを調整 ■図35 高齢者や車いすに対応したキッチンカウンター



■図37 居間と寝室のベッド配置の関係



■図33 キッチン平面計画の例

